

# 第4版の序

本書は平成24年(2012年)にはじめて発行され、おかげさまで多くの方々からご支持をいただいていた。初版発行から7年のときを経て、令和という新しい時代に第4版を発行できることを心より感謝したい。

基礎栄養学は、「栄養とは何か、その意義について理解する」ために非常に重要な科目である。管理栄養士・栄養士養成教育において栄養学を学ぶうえで、文字通りその基礎・土台となる根幹科目である。本書は「テキスト(教科書)」と「演習版ノート」の2冊セットにすることにより、効果的に学習することを狙った「栄養科学イラストレイテッド」のテキスト(教科書)版である。本書は全10章からなり、国家試験のガイドラインに完全に対応した内容となっている。巻末には「日本人の食事摂取基準(2020年版)」も付表として示してあるので参照してほしい。各章の冒頭に、まずその章で学ぶべき「重要ポイント」と章全体をイメージできる「概略図」を示した。章末には内容の理解を確認するための「チェック問題」を用意している。さらに、その章で学んだ知識が、臨床の現場でどのように活かされるのかをイメージできるよう「臨床栄養への入門」を加えた。また、姉妹版の「演習版 基礎栄養学ノート 第4版」とセットで使用することで、さらに効率よく学習できるよう作成してあるので、活用をおすすめしたい。

この本の最大の特徴は「わかりやすさ」にこだわった点である。私は、本書が読者の皆さんの目標実現の一助となることを願っている。そこで私の好きな言葉を2つここに記したい。

「高い目標をもつこと。その目標に見合った努力をすること。最後の最後まであきらめないこと。その目標は、きっと実現されるであろう」

「人生における幸運(ラッキー)とは誰のところにも訪れるわけではない。それはチャンスに対して準備ができている者のところにだけ訪れるのである」

最後に、本書をまとめるにあたり多大なお力添えをいただいた羊土社編集部の、今城葉月氏、田頭みなみ氏に深く感謝申し上げます。

2019年12月

執筆者を代表して  
田地 陽一